

【説明資料(提出ファイル)】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的, 利用方法, 作品自体やその製作過程で工夫したことを, 文章, 写真, 図などで説明。この用紙1枚に記入し, PDFに変換した後, web提出フォームにて提出する。

個人・グループ名	ものづくり教室・木材班	大学名	岐阜大学
作品名	小学校中・高学年向け「木製ブックスタンド」題材の開発・実践	人数	1名

小学校中・高学年でも2時間で完成でき、家庭に持ち帰って使える、技術・家庭科につながる実用的な「ブックスタンド」題材を開発・実践



目的: 小学校3~6年生を対象とし、中学校技術・家庭科につながる実用的なものづくりの意義を体感できる題材として「ブックスタンド」を開発。正味2時間で製作。手のこ、玄翁、ボール盤、ベルトサンダーを使用。

概要: 奥行150mm、幅124mm(開口100mm)、高さ212mm。主材料は12mm厚のアガチス材を用い、真鍮釘と木工用ボンドを併用したうち付け継ぎによって組み立てられる。2本の脚パーツにより傾斜をつけて、収納物を安定させるとともに取り出しやすく。仕上げには柿渋を塗布。

工夫① 多様なニーズを想定し、どの家庭でも活用する場を



- ・ダボによる脚パーツを差し替えることで、縦置きと横置きの両方で使用できる。
- ・文庫本やコミック本、教科書やノート、A4サイズのファイルまで収納できる。多様なニーズに対応することで、子どもや家族の誰かに必ず使ってもらえるように。



工夫② 正確な加工を、子ども自身の手で



- ・ガイド溝
両刃のこによる横びきの精度を向上、ベルトサンダーによるこぐち削りの加工終了の目安に。
- ・位置決めテンプレート
材料の端に合わせて印に画鋸を刺すことでボール盤による下穴あけの位置決めをすばやく正確に。
- ・組み立てスタンド
L字接合の釘打ち作業で板を垂直に立てて固定し、安定して作業できるように。
- ・できるだけ多くの工程を子ども自身の手で行えるように工夫することで「自分でできた」という達成感を。

工夫③ 多くの加工作業を体験し、作品に愛着を





- ・手加工のほかに、ボール盤やベルトサンダーなど小型加工機器を使って、正確で効率的な作業を体験。
- ・素地磨きや柿渋によるはけ塗り塗装など、手間のかかる作業を行うことで製作品に愛着を。

実践の概要と評価

令和元年度岐阜大学教育学部フレンドシップ事業
「こどものためのものづくり教室」
日時：令和元年10月19日(土) 9:30~16:00 (2シフト制)
場所：岐阜大学教育学部
URL：<http://tech.ed.gifu-u.ac.jp/~friends/>

- ・小学生1~6年生32名が参加。大学生が支援して2時間の作業で全員が完成できた。
- ・参加児童への事後調査では「製作品そのものへの満足度」「製作作業の楽しさ」がともに100%と肯定的な評価が得られた。
- ・行事から3週間経過後の保護者への事後調査では回答者の93%が持ち帰った作品を「使っている」と答えた。

適切な支援・指導があれば、小学校図画工作科でも、現在中学校技術・家庭科で行われているような、家庭に持ち帰って長く使える、実用的な製作活動を体験させられるのではないかと